



# 「どうさんの家」が生まれたわけと思い

特定非営利活動法人どうさんの家  
理事長 木村 秀三

特定非営利活動法人「どうさんの家」が創立したのは、今から4年前のことです。私が立ち上げたかった理由は教員生活35年の反省からでした。

退職して4年、この期間は私にとって教職員生活では気付かなかったことを知る、第二の出発になる最高の充電期間でした。始めの1年は、生業にした陶芸活動で児童館職員やイベント参加者と出会いました。2年目から、障がい者就労支援施設で勤務し、その時に平川病院の創作活動の実践・個性豊かな作品の創作を特徴とする「たんぼぼ」・「るんびにい美術館」・「やまなみ工房」などの社会福祉法人施設の方々と会うことが出来ました。地元仙台では「ボードレスアートクラブ仙台」や「せんだい杜の子ども劇場」などの皆さんとも仲良くなりました。皆さんは「人を大切にする」活動をする人達でした。その中で障害のある人が創作活動を楽しむ姿に何度も出会いました。みんな笑顔がステキでした。どの人も各自が「出来るんだ」という思い（自己肯定感）と、自分が「何かの役に立っている」という思い（自己有用感）を持っています。その姿から、障がいは「害」ではなく「支援が必要な個性」であること、その個性を伸ばすには適切な支援が大事なのだと痛感したのです。

学校は、社会の中で生き抜く生活力と学力向上という観点で子どもを評価し、出来るようになるまで何度もやり直しを求めます。時には個性を伸ばすよりも苦手意識を高めてしまうことも少なくありません。確かに学校は、社会に役に立つ理想的な人間をめざして教育に努めますが、それは社会を維持し、社会の役に立つための人間（生産性を高める人）を作る“社会のための教育”になっているのです。しかし本来の教育の目的は、社会を維持する人材より

も、まず一人一人の個性を伸ばすことが根本であり、それを行うのが社会であり“教育のための社会”であるべきなのです。そこで現在の学校が出来ないこと、一人一人の個の思いを丸ごと認めた自己実現の場、寄り添いながら一人の個性を伸ばす活動ができる場として「どうさんの家」を立ち上げたのです。

今は放課後等デイサービス事業が中心活動になっています。造形的活動が好きな個性豊かな子どもへの支援を行う施設です。困ったこともあります。親が造形活動をさせたくて利用させることがあります。運動が好きな子ども音楽が好きな子どもいるのですから、その子の趣味や思いを優先させるべきなのですが。私たちは造形的な活動を支援するだけでなく、時には「何もしない支援」をすることも少なくありません。疲れた心を癒したり、お話を聴いたり、休息する姿を見守るだけの支援も日常茶飯事です。子どもの気持ちに寄り添うことが基本だからです。

NPO法人として「どうさんの家」を立ち上げたのは、造形活動を中心に、老若男女・障がいの有無にかかわらず、「みんな一緒に活動」をするためです。個性を認め合うことは、皆が何気なく一緒にいて安心して笑顔で居られることです。そのための空間づくり、一緒に活動できる場所づくりに、微力ですが頑張っています。

応援よろしくお願ひいたします。

